

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月5日

上場会社名 アールビバン株式会社

上場取引所 JQ

コード番号 7523 URL <http://www.artvivant.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野澤 克巳

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室マネージャー (氏名) 中島 章裕

TEL 03-5159-7177

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	4,997	△8.0	776	40.6	732	39.4	413	750.2
21年3月期第3四半期	5,431	—	552	—	525	—	48	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	30.10	—
21年3月期第3四半期	3.54	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	17,865	14,494	81.1	1,054.41
21年3月期	18,116	14,510	80.1	1,055.54

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 14,494百万円 21年3月期 14,510百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	5.00	—	30.00	35.00
22年3月期	—	5.00	—		
22年3月期 (予想)				5.00	10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,350	△7.8	810	50.8	770	47.8	410	—	29.83

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他 をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他 をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 15,463,816株 21年3月期 15,463,816株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 1,717,170株 21年3月期 1,717,140株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 13,746,646株 21年3月期第3四半期 13,758,296株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.上記の業績予想につきましては、平成21年11月5日に公表しました内容から変更しております。詳細は、4ページ「【定性的情報・財務諸表等】3.連結業績予想に関する定性的情報」及び本日別途公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2.本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予測数値と異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や輸出環境の好転により、生産の持ち直しや株価回復が見られたものの、雇用環境の改善には至っておらず、個人消費の低迷は依然として続く厳しい状況で推移いたしました。このような状況のもと、当社グループは、当社の原点に立ち返ったアート中心の営業施策を展開し、短期的には、販売力強化と、経費削減による収益構造の改革、長期的には、最新アートトレンドを主軸とした、収益源の多様化を目指す戦略に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期の連結業績は、売上高4,997百万円（前年同期比8.0%減）、営業利益776百万円（同40.6%増）、経常利益732百万円（同39.4%増）、四半期純利益413百万円（同750.2%増）と、前年同期と比較して減収増益となりました。

◆アート関連事業

当社グループの主力事業である絵画等販売事業におきましては、お客様視点に立った営業力強化に一層注力し、催事販売における会場費等の削減・効率化に引き続き取り組んでまいりました。また、若手アーティストの発掘・プロデュースや、現代アート作品購入により、収益基盤の拡大を目指してまいりました。その結果、売上高は3,129百万円（同7.1%減）、営業利益446百万円（同22.6%増）となりました。

◆金融サービス事業

当社グループ顧客中心に信販業務等を行ない、当社グループ以外の加盟店獲得、営業貸付など、収益機会の最大化を図っておりますが、取扱高の減少により、売上高675百万円（同6.8%減）、営業利益451百万円（同3.0%増）となりました。

◆リゾート事業

タラサ志摩ホテルにおいて、宿泊者数の減少による稼働率低下で減収となったものの、ホテル運営の見直しによる経費削減効果もあり、売上高732百万円（同18.5%減）、営業損失78百万円（前年同期は143百万円の営業損失）となりました。

◆健康産業事業

新たなフィットネスマシンや新会員プランの導入により引き続き会員数のアップに努め、業務の効率化を図るなど経費削減に注力した結果、売上高472百万円（同9.0%増）、営業損失51百万円（前年同期は118百万円の営業損失）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当四半期における総資産は、17,865百万円となり、前連結会計年度末比250百万円の減少となりました。営業貸付金が994百万円、商品及び製品が683百万円増加した一方、現金及び預金が1,010百万円、受取手形及び売掛金が931百万円減少しております。

また、負債につきましては、割賦利益繰延等が207百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ235百万円減少し、3,371百万円となりました。

純資産は、14,494百万円となり、自己資本比率は81.1%と、前連結会計年度（80.1%）とほぼ同水準を維持しております。

② キャッシュ・フローの状況

当四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前四半期純利益や売上債権の減少等の増加要因があったものの、営業貸付金の増加、たな卸資産の増加、配当金の支払等の減少要因により、前連結会計年度末に比べ1,010百万円減少し、4,209百万円となりました。

当四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は526百万円となりました。

これは主に税金等調整前四半期純利益751百万円、売上債権の減少額931百万円等の増加要因があったものの、営業貸付金の増加額994百万円、たな卸資産の増加額668百万円等の減少要因があったことによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は3百万円となりました。

これは主に敷金及び保証金の回収による収入31百万円、出資金の分配による収入24百万円等の増加要因があったものの、有形固定資産の取得による支出21百万円、無形固定資産の取得による支出11百万円、敷金及び保証金の差入による支出17百万円等によります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は481百万円となりました。これは配当金の支払等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年11月5日に公表しました通期業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日別途公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動はありません。なお、平成21年9月1日付けで、(株)ダブルラックと(株)アートファイナンスが合併し、(株)ダブルラックとなっております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①固定資産の減価償却の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

②繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降経営環境等及び一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

表示方法の変更

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

前第3四半期連結累計期間において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「出資金の分配による収入」は重要性が増したため、区分掲記することとしました。なお、前第3四半期連結累計期間の「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「出資金の分配による収入」は27,043千円であります。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,209,319	5,220,041
受取手形及び売掛金	6,118,084	7,049,305
営業貸付金	1,208,570	213,850
商品及び製品	1,264,560	581,267
仕掛品	5,139	12,009
原材料及び貯蔵品	47,702	56,096
前払費用	238,972	315,972
繰延税金資産	412,409	443,129
その他	964,706	648,441
貸倒引当金	△116,127	△92,465
流動資産合計	14,353,339	14,447,648
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,630,851	2,615,980
減価償却累計額	△957,841	△883,000
建物及び構築物(純額)	1,673,009	1,732,979
土地	324,468	324,468
その他	568,909	566,278
減価償却累計額	△309,465	△284,456
その他(純額)	259,444	281,822
有形固定資産合計	2,256,921	2,339,270
無形固定資産		
のれん	22,139	26,766
その他	28,358	38,218
無形固定資産合計	50,498	64,984
投資その他の資産		
投資有価証券	533,054	541,699
敷金及び保証金	281,447	295,722
繰延税金資産	132,415	159,824
その他	338,440	382,472
貸倒引当金	△80,467	△115,241
投資その他の資産合計	1,204,891	1,264,477
固定資産合計	3,512,311	3,668,732
資産合計	17,865,650	18,116,381

